

## 報因講まいり



ある寺で出会ったお年より  
この十二日十三日は、例年通りこうしてわ  
たしの村のお寺の報恩講です。

何しろ三十戸たらずの小さな村。みんなお  
参りしたところでとても本堂一杯にはなりま  
せん。それにこのごろは、どうしたわけか家  
代表で一人。花も実もないお義理参りという  
奴です。本当に情けない世の中になつたもん  
です。

いやいやこれはよそ様のことではない。わ  
たしのいえだって若い者は男も女も、何がそ  
んなに忙しいのやら、わたし一人を置いてみ  
んな働きに出てしまひます。わたしは実は、  
これ幸と、こっそり家を抜け出してこうして  
お参りにくるのです。

肺気腫いいまして、もう肺が大方つまつて  
しまいまして、自分で呼吸がもう出来んよう  
になつてしまつて、酸素ボンベ引きすつて生  
きております。シベリヤ抑留のお土産ですわ

そんな私を、家の者は「うろうろせんと、  
おとなしゅうジットしとらんと、なんかあつ  
たつて知りまへんで。」いうて出ていつてしま  
ります。そしたら鬼のおらん間のせんだく  
や。そーっと家抜け出して報恩講さんに参  
てきました。つい、お寺の隣やのに、ボンベ引きづ  
て、足立たん今まで、ボンベ引きずっとま  
で、そのままお淨土へ引きずり込んでやる  
とおっしゃつて下さるのに、なんでそれが私  
やー素直に、いただけんのでしょうか。

やっぽり信じなあかん、伝えにやあかん、  
参らなあかんちゅーて、今日も実は参つて来  
たんですわ。  
そしたらお説教で、親鸞様のご遺言を聞か  
せてもらいました。

「若の浦和の片男波の寄せかけ寄せかけ、帰  
らんに同じ。」って。  
この、しぶとい奴やで、親鸞様は、寄せかけ  
寄せかけ手をかえ品をかえて、わたしのここ  
に、迫つてくださる。  
まあなんともつたないこと。私は、この  
まま此処で息つまらせて死んでも、「心は淨  
土に遊ぶなり」で、めでたしめでたし。私一  
人で嬉しいのですわ。

もう七十歳も越したのですから、これが当  
たり前かも知れませんが、七年前の心臓手術  
以来、あつちこつちに故障が出て、人様の前  
に出てもこんな具合に正座も出来ません。確  
かに、厄介になるばっかりで、家にいる者  
ため、まして世のためには全くの役立たず。  
粗大ゴミならまだ存在感ぐらいはあります  
が、存在感も何もないただのゴミ。塵芥(ちじ  
りあくた)というのはわたしのことです。

こんなになつて最近、もう五十年も昔に亡  
くなつた母親の夢をよく見るのです。  
私は幼いときから病弱で、母親は随分配  
し苦労して私をそだててくれました。ここへ  
嫁にくる日にも、父と母は、こんな言葉を贈  
ってくれました。

『身体髮膚之レヲ父母ニ受く。敢エテ毀  
傷セザルハ孝ノ始メナリ』。どうぞ病氣せん  
ように。

『孝經』という書物の言葉で、親は口癖の  
夢のなかの母はハツキリいうのです。「病氣を

すなよ」つて。

私は思うのです。

病氣して、もうボロボロになつて、子から  
も孫からも要らんものにされて、しかし、そ  
んなわたしですから、親は、親だけは今でも  
心配しておつてくれるのや。親は、親だけは今でも  
わからん、一寸先も見えない私を、願い通し  
と思いまして、夢見た朝にお仏壇にお参りし  
たら、今度は、『弥陀成仏のこのかたは 今に十劫を経た  
まえり』とせなあかん、しつかり生なあかん  
わからん、一度先も見えない私を、願い通し  
呼びどおしと氣づかせてもらいました。このようやつたらいつそ死にたいわと思う  
こともありましたが、そんなこと、もつたい  
ないもつたいない。

病氣するよ、しつかりと生きよと如來様と  
親とに願われていろいろのち。自分で死ぬ。これが不孝のは  
じまりです。終わるまで、死ぬまで。だいじにだいじ  
に生きさせてもらわんとと、このごろ思つて  
おります。

## 十二月のことよみ

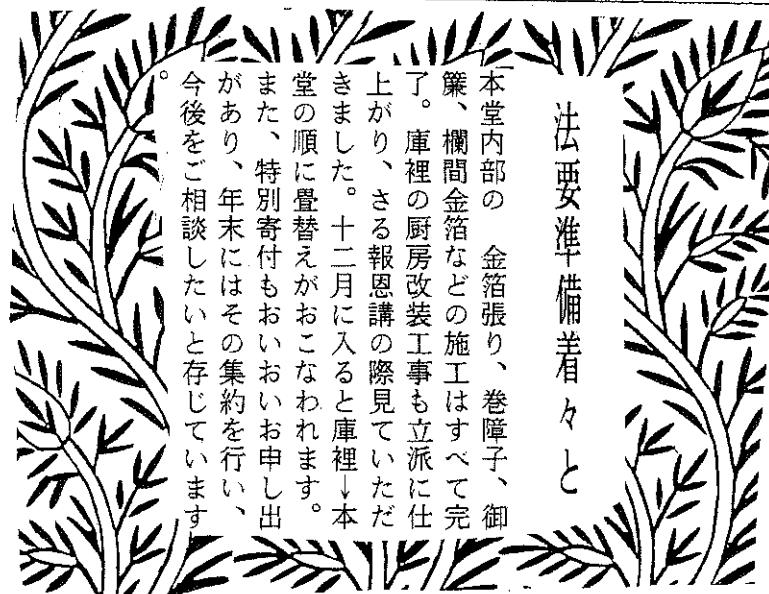
一日 朗読ボランティア(昔話)  
二日 ご本山運動推進本部  
三日 正法寺報恩講(午後)☆  
四日 定期検診日  
五日 正法寺報恩講・総講☆  
六日 唐川報恩講・総講○  
七日 合同役員会  
八日 太田・東里報恩講  
九日 奥小谷報恩講○  
十日 丸中・片間報恩講☆  
十一日 区町会  
十二日 運動推進本部  
十三日 D S 玉日会定例法座  
十四日 保谷・日殿報恩講☆  
十五日 浜考司氏宅法事  
十六日 出合報恩講・総講☆○  
十七日 滝谷重雄氏宅法事○  
十八日 小田総講  
十九日 市場報恩講☆○  
二十日 区町会・下水道説明会  
二十一日 小田報恩講・托鉢☆  
二十二日 D S  
二十三日 蓼坂報恩講○  
二十四日 小田報恩講☆  
二十五日 横山誠氏宅忌明  
二十六日 野尻・矢根報恩講☆○  
二十七日 教区布教団役員会  
二十八日 口小谷報恩講・総講☆○  
二十九日 横山誠氏宅忌明  
三十日 豊岡報恩講☆  
D S  
除夜会

横山久枝さま  
(七十二歳)

十一月十五日

榎見

## 葬儀



## 法要準備着々と

本堂内部の金箔張り、巻障子、御簾、欄間金箔などの施工はすべて完了。庫裡の厨房改裝工事も立派に仕上りました。十二月に入ると庫裡→本堂の順に置替えがおこなわれます。

また、特別寄付もおいおいお申し出

がありました。そしたら鬼のおらん間のせんだく

や。そーっと家抜け出して報恩講さんに参

てきたのです。

つい、お寺の隣やのに、ボンベ引きづ

て、足立たん今まで、ボンベ引きずっとま

で、そのままお淨土へ引きずり込んでやる

とおっしゃつて下さるのに、なんでそれが私

やー素直に、いただけんのでしょうか。

寝ていても起きて

お慈悲の内ということは、そりやあ

うですが、あまりにも勿体ない。そのまま

で、足立たん今まで、ボンベ引きずっとま

で、そのままお淨土へ引きずり込んでやる

とおっしゃつて下さるのに、なんでそれが私

やー素直に、いただけんのでしょうか。

歳末みのりを聞く会(龜井幸男氏宅  
報恩講)・餅搗き・歳末清掃奉仕  
豊岡報恩講☆

◎は住職 ☆は副住職

## 家族と支え合へうなかで



第二十五回少年の主張全国大会に総理大臣賞にかがやいた栃木県西那須野中三年松林朝子さんの文章を紹介します。

私の祖母は、最近老化が進み、家中でも杖なしでは歩くのが難しいくらいです。ある日、祖父が顔を曇らせて「やよいさん、すまんけど」と、母になにかヒソヒソ話しました。母はすぐに祖母の部屋に行き、忙しそうに出たり入りたりし始めました。間もなく「朝子、ビニール袋を持って来て!」母の声がしました。私はすぐに行きましたが、一步部屋に入った瞬間『あつ』と声を止めてしまいました。祖母のからだ拭いている母、布団を運び出す祖父、つんと鼻をつく嫌なにおい…。

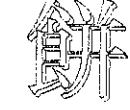
「おばあちゃんが粗相したんだ」。そう分かった時、私は袋を持ったままその場から逃げました。『きっと手伝わされる。どうして私があんな汚いことを!』そう思った私は母の呼ぶ声に耳をふさいだのです。

掃除を終えて汗だくの母が、私にいました。「おばあちゃんはね、おまえが赤ちゃんの時、おもらしを笑顔で掃除して下さったの。おまえはそうして大きくなつたのよ」。わたしはその話を聞きながら、恥ずかしくなりました。臭い、汚い…ほんの少しの嫌なことで、困っている家族を見て見ぬふりをする。私自身が、家族に支えられていることも忘れてしまって、私の心は、なんてちつぽけなんだろうと思つたのです。

私はよく、老人ホームを訪問します。わずか一、二時間、歌を歌い、お話しをする。ただそれだけで、ホームの皆さんは涙を流して喜んでくださいます。それを不思議に思つていた私は、あるお年寄りの一言に、はつとしました。「家族とはもうずいぶん会つていなければないのだ。どんな小さなことでも、暖かい心の交流を求めているのだと気づきました。

私はわざかな時間でも、寂しい人々の楽しみ、喜びとなれたことを嬉しく思います。高齢化社会が深刻化する中、私たちにできることは何でしょう。それは、自分も人に支えられていることを忘れず、支える立場に立つことではないでしょうか。自分の手を必要としているお年寄りに目をむけること。私はその一人である祖母がいます。家族の一員として祖母を支えて行くことが、私の第一歩です。激しい耳なりに苦しみ、楽しみは何もない祖母は、「生きよう」とする意欲を失いかけています。少しでも楽しみになれぱと、私は手品を練習し、見せたことがあります。すこし不安でしたが、祖母は、「一流れや、フフフ」と、何年かぶりに声を上げて笑ってくれたのです。また、ほとんど寝たきりの祖母の部屋は私が掃除することになりました。ある日、お布団の下にカビが生えていました。この様子をじっと見ていた祖母が、少し起きてみようと言つてくれたのです。本当に嬉しいことでした。わずかでも、祖母に生きようという気力を出してもらえたからです。祖母が少しでも元気な様子を見せると、母も、「朝子のおかげで、ゆとりができた」と喜んでくれます。祖母のためを思い祖母もそれに応えてくれることは、家族みんなの励みになるのだと、その時実感しました。

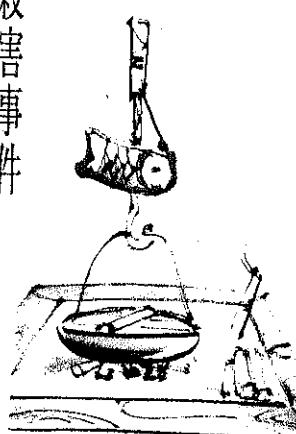
## お餅つき



十二月二十六日 午後一時より  
お餅つき 嵯末清掃奉仕

家族お掃いでご参加ください  
楽しく年越しの餅をついて  
20世紀を

送りましょう



### 幼児殺害事件

十一月の「みのりを聞く会」は、突然の寒波襲来で、いつもの常連六・七人のお参りでした。おつとめ・ご法話が終わつた後の「話し合い」。話題は今朝新聞報道の東京文京区の付属幼稚園入園をめぐつての幼児殺害事件です。

加害者の母親は、人のお世話をまめにする、近所づきあいのいい明るい人物であつたとか。なんでそんないい人が…。

この報道をきかされて、わしは自分の胸を

搔き毬られる思いがした。殺された幼い子もさることながら、殺したその人のことを、人間のことでなく自分のことと思われ、そつとしたん

世間で「善人」で通つてゐるひとも、ひょっとしたきっかけ、ふとしたはずみで、何をしでかすか知れない。いつかの法話で、そういうのが人間や。そやから仏法では、人間のことを「機」というのやと聞いたことがある。はずみがつけばどんな恐ろしいことも仕出しているお年寄りに目をむけること。

私はその一人である祖母がいます。家族

蓮如さまの話を聞いていつか思つたことがあつた。「まいらせごころわろし」。

私は我が子を愛してあげている。

知らぬ間に、そいつにシッポが出てしまう。

「尽くしてやつてるノニ」「愛してやつてるノニ」と。

その憎しみが、わが子ではなく、あざ笑つた母親ではなく、何の責任もない頑はないに、その善意や愛が、憎しみ憎悪に変わつてしまふ。幼児虐待・老人虐待。

その憎しみが、わが子ではなく、あざ笑つた母親ではなく、何の責任もない頑はないに、その善意や愛が、憎しみ憎悪に変わつてしまふ。幼児虐待・老人虐待。

その憎しみが、わが子ではなく、あざ笑つた母親ではなく、何の責任もない頑はないに、その善意や愛が、憎しみ憎悪に変わつてしまふ。幼児虐待・老人虐待。

みほとけの光にてらされ、我が身の罪障を知させていただき、「我が身有り顔」独りよんやる。

子供の入園競争。うちの子供だけは何が何

がりの独創心はたがいに憤まねばと、お念佛で話し合いを閉じました。

それにも、なんでこんなことになつたんやろ。

子供の入園競争。うちの子供だけは何が何

がりの独創心はたがいに憤まねばと、お念佛で話し合いを閉じました。

みほとけの光にてらされ、我が身の罪障を知させていただき、「我が身有り顔」独りよんやる。

子供の入園競争。うちの子供だけは何が何

がりの独創心はたがいに憤まねばと、お念佛で話し合いを閉じました。

どの母親も、自分の育てよう、自分の愛が絶対。それを人から批判されたり非難されたり、陰であざ笑われようものなら、許してはおけない。

母の愛は絶対です。だから母の愛は美しい

。そして恐ろしいのではないか。